

第5章 海の森（仮称）事業の進め方

1 海の森（仮称）事業の進め方

海の森（仮称）の事業は、公園規模が大きく、世代を超えた協働によって進めるため、長期にわたる展開を想定している。

通常行われる公園整備手法では、公園整備が終了した後、開園し、公園管理を始める。しかし、今回の海の森（仮称）の事業は、公園整備の初めから、整備地内での植樹を中心に、協働による事業が進められ、そのためのしくみの育成も行われる。

このため、公園整備として土木機材を用いて行う専門的な公園工事、森づくりなどの植樹活動や運営活動としての協働活動、さらに、一般利用者の公園利用に供するサービス提供など、多岐にわたる海の森（仮称）事業が、時間的に重なりながら進められる。

これら海の森（仮称）事業をどのような時間軸で進めていくかを、公園整備がほぼ終了するであろう30年間を目安に段階的に想定した。

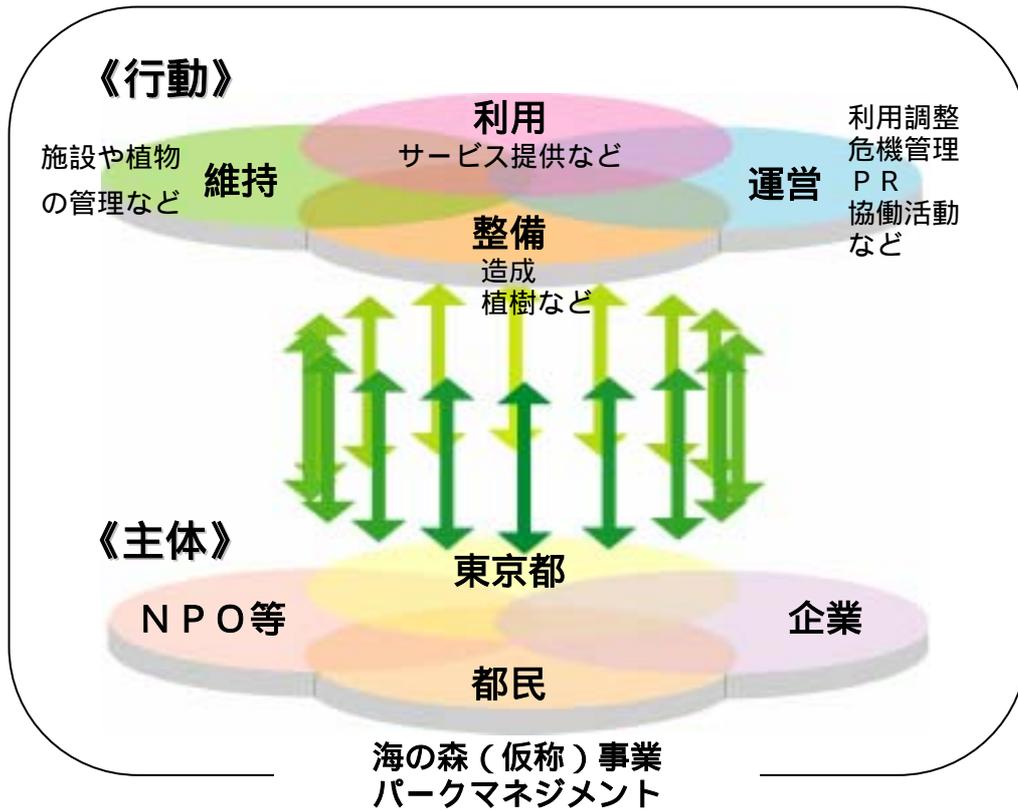
段階的な公園整備においては、およそ10年程度の各段階に区分し、各段階の状況を想定した目標を設定し、海の森（仮称）の自然環境再生の到達点のイメージを共有しながら進めていくことが必要である。

また、後年度の整備予定地を、整備に着手するまでの間も有効に活用を図っていく。

このように、時間をかけて海の森（仮称）事業を行う中で、社会・経済状況の変化、様々な都民の意見の動向を的確にとらえ、適切な時期に事業の進め方を点検し、改善を行っていく必要がある。

さらに、この構想が目指す「海の森（仮称）」を実現していくためには、限られた資源を有効に活用してよりよい事業展開がされるよう、整備・維持・利用・運営などそれぞれの場面で協働の手法を取り入れ、経営的な発想で総合的に管理（パークマネジメント）し、それを長期的に継続していくことが不可欠である。

海の森（仮称）事業におけるパークマネジメントのイメージ



各主体が相互にかかわり合いながら、整備、維持、利用、運営などの各行動を展開していく。それを経営的な発想で総合的に管理（パークマネジメント）し、長期的に継続していく。

整 備	維 持	利 用	運 営
-----	-----	-----	-----

第 1 段階
各「行動」の始動に伴い、相互の関連性を緊密にする調整を行う。小中学校や周辺施設との連携に向け調整を進める。

防風植栽のための造成を展開（南側斜面の植樹、台地部外周の土塁設置と植樹） 管理・便益施設の一次整備 後年度整備予定地の一次造成 土づくり 森づくり活動	植栽管理計画に基づいて苗木や植栽樹木の維持管理を実施 施設管理計画に基づいて施設の保全管理を実施	後年度整備予定地でのイベントの開催 環境学習を展開（森づくりの過程の解説、ごみ埋立処分場との連携、自然観察など） 野外体験活動 公園ガイド活動	PRの展開 賛同受入策展開 協働活動を開始（植樹祭実行委員会 グループ連絡会 育生・ルールづくり、協議会の確立）
---	---	--	--

第 2 段階
海の森（仮称）事業の進展に伴い、様々な「行動」の関係が複雑になるため、互いの「行動」と事業全体の調整を行う。来園者増加に伴い、交通手段の充実を働きかける。

観察と保全の森、ふれあいの林の造成を展開（池、流れの設置、植樹） 管理・便益施設の充実 森づくり・水辺の植生づくり活動、身近な施設づくり活動ほか	整備区域の増大に対応した植栽の維持管理、施設の保全管理を実施 池、流れなどの水辺の植生管理を実施 一部施設の更新	協働による活動を展開し、利用者に多様な利用メニューを提供 後年度整備予定地でのイベントの充実 環境学習の充実（森づくりの見学や森の成長に伴う生物相の変化の観察など） 林間レクリエーション	PRの充実 賛同受入れ策の多様化 ブランドの確立 協議会を通じた協働関係の展開 協働活動が発展（事務局の充実、法人化検討、海の森楽校（仮称）の育成などによりグループ連絡会が発展）
--	--	--	---

第 3 段階
基盤整備の完成とその後の成長に向けて、多様かつ新たなサービスを展開するために、海の森（仮称）事業の質を高めていく。

ふれあいの海辺など海辺周辺及び移転施設跡地の造成を展開 必要に応じて一部区域の再整備 森づくり・海辺の植生づくり活動、身近な施設づくり活動ほか	老朽化などにより多くの施設の更新が生じてくるため、再整備計画と調整 50年、100年後を見据えた植生管理を実施	一般利用と協働活動の利用が進展 林間レクリエーション、海に親しむスポーツほか 森の景観、臨海部の景観を眺望	協働活動の活力、魅力の更なる向上、充実
---	--	---	---------------------

2 海の森（仮称）構想平面図



3 海の森（仮称）構想 鳥瞰図

